


発生箇所	②横目地
分類	維持修繕
参考箇所	9-3-3(1) 版と版との段差
<p><b>●内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横目地部に段差が生じており、目地部から砂が噴出した跡があった。</li> </ul>	
<p><b>●原因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目地部からの雨水浸透によりダウエルバーが腐食・破断し、さらにポンピング作用により水と一緒に路盤の細粒分の一部が目地部から噴出することで版下に空洞が生じた。</li> </ul>	 <p style="text-align: center;">断面図</p>
<p><b>●発生防止策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目地材のはみ出し・飛散がみられた際は確認次第速やかに再充填を行い、雨水の浸入を防ぐ。</li> </ul>	
<p><b>●発生した場合の対応策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>段差が小さい場合には、FWD 調査により荷重伝達機能と版下の空洞について確認する。</li> <li>FWD 調査の結果、荷重伝達機能が確保されており、版下に空洞が発生している可能性が低い場合は、すりつけによる補修を行う。</li> <li>FWD 調査の結果、荷重伝達機能が低下している場合はバーステッチなどにより荷重伝達機能の回復を図る。</li> <li>FWD 調査の結果、版下に空洞が存在する可能性が高い場合は、アンダーシーリングによる空洞充填を行う。</li> <li>段差が大きい場合は路盤を含めた局部打換えを行う。</li> </ul>	